

# 朱一だより

## 特別号

京都市立朱雀第一小学校  
Tel 841-3201  
校長 宮下 佐知子  
令和8年1月28日

### 【令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告】

#### ＜令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果＞

昨年の4月に、6年生児童を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとめました。今年度は、国語科・算数科・理科の3教科について調査しましたので、その結果と、学習状況等に係る調査について、本校児童の状況の概要を全国の結果と合わせて報告いたします。

#### ＜総合結果＞（国語・算数・理科）

今回の調査を行った結果、国語科・算数科・理科の全てで、全国・京都府の平均を上回りました。どの教科も、記述式の問題での正答率が全国・京都府と比較して高くなっています。最後まで粘り強く考え、自分なりの表現をしようとする姿勢が見えました。

#### ＜国語科より＞

全体的に見ると、全国・京都府平均を上回っており、今までの学習の積み重ねの成果が見られる結果となりました。「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかを見る」「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかを見る」設問でも90%を上回り、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の育成に向けて取り組んできたことの成果が見られました。一方で、「必要な情報を見付けること」や「叙述を基に要旨を把握すること」は、全国・京都府平均より上回っていたものの、他の問題と比べると正答率が低くなる傾向が見られました。今後は、たくさんの情報の中から必要なものを取捨選択し、自分の考えを築いたり、条件に沿って自分の考えを書いたりする力を育成ていきたいと考えます。

#### ＜算数科より＞

全体的に見ると、全国・京都府平均を約10%以上上回っており、今までの学習の積み重ねの成果が見られる結果となりました。また、全国・京都府平均と比較すると無回答率が低く、記述式問題の正答率が高くなっています。日々の授業での交流やノート記述などで、自分の考えを表現する力がついてきていることが

分かりました。

一方で、評価の観点が「思考・判断・表現」の設問では、全国・京都府平均は上回るもの、他の問題と比べると正答率が低くなる傾向がありました。学習したことを見かして問題解決していくことについては、引き続き授業での主体的・対話的な学びを通して、資質・能力の育成を図っていきたいと考えます。

#### ＜理科より＞

どの問題も正答率は、全国・京都府平均を約10%以上上回っており、今までの学習の積み重ねの成果が見られる結果となりました。

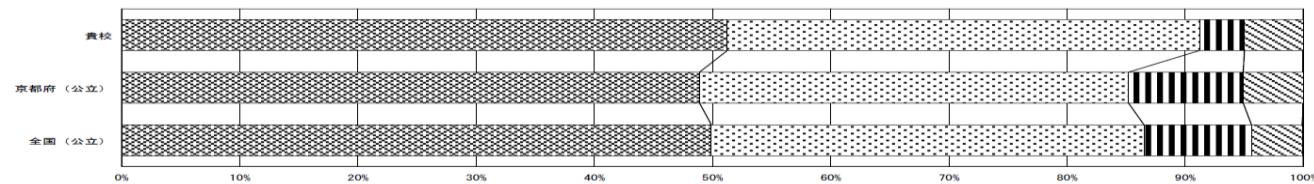
一方で、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかを見る」設問や「レタスの種子の発芽の条件について、違いや共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかを見る」設問では、自分の考えを記述する問題となっており、選択肢があるほかの問題と比べると無回答が多くなっていました。今後は、一人ひとりが、言葉で話したり、表現したりする時間を大切にしながら問題解決能力の育成を図っていきたいと考えます。

学力・学習状況のどちらも、あくまでも全体的な傾向であり、個々人の頑張りや課題とは別個のものとしてとらえる必要があります。ただ、今回の調査から得られた本校児童の傾向や特徴的な結果をしっかりと踏まえ、学校教育目標「よりよく生きるために、自ら考え、行動する子」の育成を目指して取組の改善を行っていきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、今後も、ご支援・ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

<児童質問紙調査より>

1. 当てはまる    2. どちらかといえば、当てはまる    3. どちらかといえば、当てはまらない    4. 当てはまらない    その他    無回答

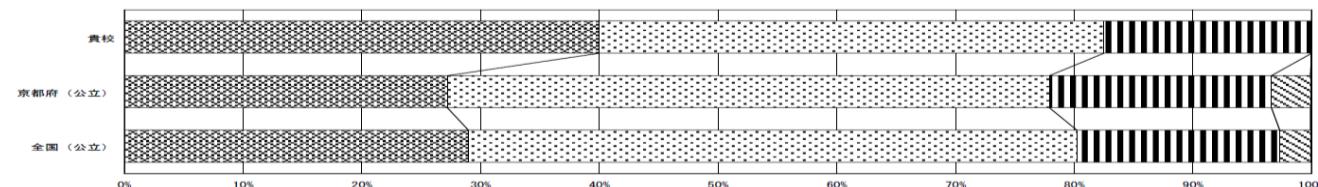
### ●学校に行くのは楽しいと思いますか。(学校生活全般)



91%を超える児童が、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答し、全国・京都府を大きく上回る結果となりました。学習の達成感、人間関係に対する満足感を共に感じている様子が伺えます。全体的には良い結果を示していますが、楽しくないと感じている児童も一定数いるため、注意深く見守り、個別に支援していく必要があります。

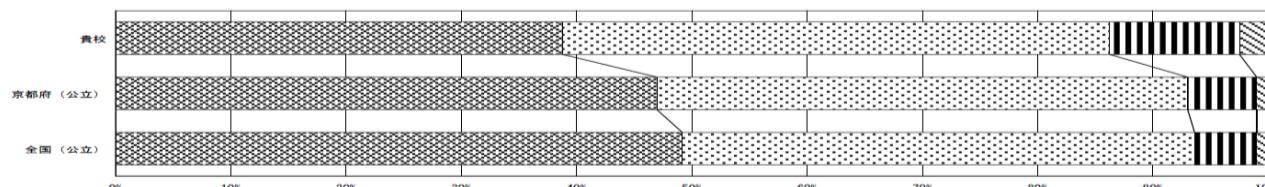
### ●課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

(課題解決力)



「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童が82%を超え、全国・京都府を上回る結果となりました。「自ら考え、行動する」ということを学校目標にも掲げ、児童に考えさせる場を様々な場面で意図的に設定してきました。今後はさらに児童の主体性を大切にし、自ら問い合わせをもち課題設定できるような授業展開を工夫します。また、生活場面では自分で考えることを大切にし、自主的に活動することで味わえる達成感を感じられるような関わりを心掛けていきたいと思います。

### ●人が困っているときは、進んで助けていますか。(人間関係形成能力)



「人の役に立つ人になりたいと思いますか。」という質問では「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童が93%いるにもかかわらず、「人が困っているときは進んで助けますか。」という質問では、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童が86%となり、全国・京都府を下回りました。願いはもっているもののその方法を知らない、あるいは関わる対象が限定的であることが考えられます。今後は実践的態度を養う取組や、人とのつながりの心地よさを意識できる取組についてさらに工夫していきたいと思います。